

後半に向けて～安全最優先！～

ご安全に！前回の委員長メッセージは1月の末でしたので、少し間が空いてしまいました。この間、AP24春季取り組みでは、基幹労連方針をふまえ各部門・部会のまとまりをもって取り組みを進めていただき、現在、交渉単位組合288組合中278組合で要求を提出、217組合が回答を得ています。今次AP24春季取り組みは、人材の確保・定着、実質賃金の維持・向上とデフレからの脱却、経済の自律的成長の好循環へとつなげるための重要な取り組みですが、全体としての現時点の回答は、その目標に向けた役割を果たし得る結果であると受け止めています。各労使の真摯な対応に敬意を表するとともに、交渉中の加盟組合においても、この流れを途切らせることなく実りある結果につながるよう、業種別部会とも連携しながら中央本部として、しっかりとサポートしていきます。

さて、能登半島地震から早3カ月以上が経過しました。基幹労連の加盟組合・構成組織の被災状況は、組合員の家族（父母）の方が1名亡くなられ、住宅災害は全壊1件、半壊8件、一部損壊57件という状況です。亡くなられた方のご冥福と被災された組合員の皆さんへお見舞い申し上げます。中央本部としては、「JBU災害救援基金」より加盟組合・構成組織を通じて、順次、支援金をお渡ししているところです。

また、被災地域の復旧に向けては、連合からの要請にもとづき石川県へのボランティアに対応しています。連合構成組織毎に1週間単位での派遣で、派遣期間の第2クール（3/31～4/6）は宇野沢中執、谷口職員、第4クール（4/14～20）は椿原中執、秋山主任に対応いただきました。次回以降の基幹労連への要請（5/5～11 および6/9～15）は、派遣要請人数が増えたこともあり、基発を発信し加盟組合・構成組織へ協力をお願いしています。現在は、第15クールまでの派遣計画となっておりますが、奥能登方面を中心にその後も対応が求められると思います。小職も阪神・淡路大震災を実際に経験しましたが、厳しい冬が終わり暑い時期へと季節が移り変わる中でのボランティア活動は、風雨や暑さなど天候との戦いでもあります。一日も早い復旧、そして復興へとつなげるため、状況を見ながらとはなりますが、基幹労連としての対応も検討していきます。

最後になりますが、私たちは「安全と健康はすべてに優先する」との理念もとで、運動・活動に取り組んでいますが、本年は死亡災害が多発している状況に鑑み、災害発生の際に連鎖に歯止めをと先月末に事務局長談話を発信しました。しかし、事務局長談話発信以降にも残念ながら死亡災害が発生し、確認中も含め現時点で「6件6人」となっています。

幸せを育むための働く職場で突然命を奪われる、こんな辛く悲しいことはありません。今一度、労使における情報の共有と周知徹底、常に安全を意識した行動の呼びかけをお願いします。ご安全に。

2024年4月17日 大安
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 津村 正男